



# Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 50

R1.10.25

## 今月のキーワード

## 即興でのやり取り

## 授業実践より (小5)

全国学テ(英語)「話すこと」の調査結果が参考値として示されました。質問されたことに対して考える時間が与えられた問題では全国正答率 45.8% (市正答率 54.2%) でしたが、即興で話す力を問う問題では、全国平均正答率 10.5% (市正答率 14.4%) であり、改めて課題が浮き彫りになりました。事前に覚えて準備したものを話すだけでなく、即興でやりとりをする活動を充実させていくことが今後更に求められます。

## 「話すこと(やり取り)」を意識した授業づくり

日頃、授業の中で「即興でやり取り」をする場面は、どのくらい確保されているでしょうか。一朝一夕に身に付く力ではありませんが、毎時間の何気ない英語でのやり取りや、スモールトーク、言語活動の積み重ねで、大きな力となっていきます。子どもたちと、ほんものの情報・知りたい情報について伝え合う活動を充実させていきましょう。

### <即興でやりとりをする活動の例>

#### ・担任の先生とALTで行うスモールトーク

6年生の Summer Vacation の単元では、ALT が実際に行った場所について、写真などを使って紹介し、そこで食べたものについて、子どもたちとやりとりをする活動が考えられます。

ALT: I went to Tokyo. I ate *ramen* there. It was *shoyu ramen*. It was delicious.

Do you like *ramen*? Which do you like, *miso* or *shoyu*?



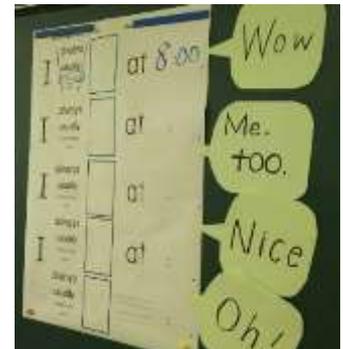
#### ・ペア活動などで会話をする際に、聞き手が相づちをうつ

A: I usually get up at 6:30.

B: **Me too.**

ペア活動をする際には、このような相づちを常に心掛けていくと、自然に定着していくと考えられます。子どもたちが知りたいと思った時に、新しい表現を追加して与えていくことも効果的です。

石橋小 黒須瞳先生の授業より



#### ・自分のことを伝えるだけでなく、相手に質問をする

A: I usually go to bed at 10:00. **How about you?**

How about you? はとても便利な表現です。日頃から、スモールトークなどでも取り入れ、どのような時に使うと便利なのか、子どもたち自身が気付き、使っていけるようになると理想的です。

英語もコミュニケーションを図るための道具です。相手の言ったことに対して、返事をしたり、質問をしたり、感想を言ったりするのは、日本語も英語も同じですね。英語でも自然な会話ができるよう、子どもたちに意識付けしていくとよいと思います。



## 5年生の授業実践より（石橋小学校）



10月に参観させていただいた、石橋小5年生担任の黒須瞳先生による授業を紹介します。（Unit 4 What time do you get up?）この単元は、**always/usually/sometimes/never** など頻度を表す単語を使って、日頃の自分の生活について友達と伝え合う活動などが設定されています。単元の最後にはどのような力を身に付けさせたいかを明確にしたうえで、毎時間のねらいを設定し、段階を踏みながら少しずつ自分の言いたいことを表現できるよう工夫されていました。

<本時のねらい> 自分の一日の生活を友達に伝えよう パート3

<授業の流れ> **Small Talk** → めあての確認 → 活動1（動作を表す表現に慣れ親しむ活動）→ 活動2（頻度を表す表現を用いて自分の生活を伝え合う活動）→ 振り返り

Small Talk



活動2



<ワークシートの工夫>

	get up	go to bed	do my homework	go to school
Sunday	7:00	11:00	9:00	
Monday	6:55	11:30	5:00	7:30
Tuesday	6:45	11:30	5:00	7:30
Wednesday	6:45	11:30	4:00	7:30
Thursday	6:45	11:30	5:00	7:30
Friday	6:45	11:30	9:00	7:30
Saturday	8:00	11:30		

- 前時に、1週間の生活（起きる時間・寝る時間・宿題をする時間・学校へ行く時間）について友達と情報交換し、時間を記入させる。  
 ※ 頻度を表す単語を教え込むのではなく、どのような場合に使うのか、具体的に確認しながら理解できるよう工夫しています。  
 （例：月～木まで宿題をする時間は同じなので、**usually** を使って表す。  
**I usually study at 8:00.**）

- 頻度を表す単語に○を付ける・絵カードを置く・時間を記入する、という3つの作業で話す活動の準備をする。  
 ※ 頻度を表す単語を、大きさを変えて表すことで、視覚的にも理解できるよう工夫しています。

- 子どもと同じワークシートを拡大して提示。一番下段は自由欄とする。  
 （I と at は書き写す）  
 ※ 自由欄を1つ設けたことで、自分のことについて伝えたい気持ちが更に高まりました。また、知らない表現は ALT に聞くなど、新たな学びもみんなと共有することができました。

